

2024(令和6)年度沖縄県若年性認知症支援推進事業  
本人家族交流会 若年性認知症カフェ 報告書

**若年性認知症カフェ**

目的：若年性認知症カフェ内で、ご本人と介護家族の交流を深め、孤立しやすい若年性認知症のご本人と介護家族のネットワークづくりを促す。

当カフェの特性

- ・ 孤立する県内の当事者及びその支援者にピアカウンセリングの場を提供する。  
参加される当事者とその家族との交流を通し、互いの不安や悩みを共有することで、安心できる居場所と仲間を作る。
- ・ 経験と技能を活かす場をめざす。交流会の場も活動の場として提供し、それぞれの活躍の場を増やすよう支援する。例：ギターや英会話などそれぞれの特技を活かした教室の開催等
- ・ カフェ内で当事者の意見を活発に頂く。施策へ反映されるよう、意見をまとめる。

1. 日時：2024年11月16日(土) 13時～15時半 定員15～20名

【会場】 新オレンジサポート室(宜野湾市普天間1-9-3)

2. 本日のプログラム ①勉強会 テーマ「災害後の支援について」講師：理学療法士 宮里朝康  
②交流会(近況報告)

3. 参加者数 5人(内訳：当事者2名、家族3名 専門職0名)専門職サポート含む

4. 当日の様子

今月の若年性認知症カフェは、九州地区認知症本人交流会 in 沖縄と重なった事もあり、参加人数は少なめでしたが、開始直後から活発な近況報告が始まり、当初予定していたスケジュールを変更し、交流会後に勉強会を行う形となりました。交流会では初参加のご家族から、「昨日やっと障害年金の手続きが終わって、それまで気が張っていたのか久しぶりにぐっすり眠れました。」と笑顔の報告がありました。また介護の苦労や制度の利用など硬い話の合間には、楽しい話題や冗談に笑いが起こる場面も多く、最近疲れていると話していたご家族も、帰る頃にはすっきり明るい表情をされていました。勉強会では、「何より薬とおむつだけは持って逃げる」というご家族が多く、それに加える持ち物として薬手帳が重要である説明もあり、災害の備えを考える良い機会となりました。

5. 所感

実際介護する事の苦労に加え、支援やサービスを利用する上で生じる手続きや書類の準備など。日々の生活のやりくりの中で、時間と労力を費やし奮闘するご家族の負担は本当に大きいものです。少しでもその負担が軽減できるよう、交流を通して生まれる心の支えは、カフェの大きな役割の一つである事をあらためて感じます。今回のスイーツはブラウニーとイチゴシューでした。



★次回予定：2024年12月21日(土) 以上